

# News 港湾ニュース

## ■「沓形港フェリーターミナルバリアフリー対応旅客施設」 供用式典を開催

利尻町 まち環境整備課

平成 24 年 5 月に、稚内市をはじめ利尻町、利尻富士町、礼文町、天塩町、ハートランドフェリー株式会社で組織する「稚内～利尻～礼文 離島航路の強化・改善を考える協議会」が発足し、ターミナル施設のバリアフリー化が検討され、各港湾において整備が進められておりましたが、沓形港は平成 26 年 3 月に着手となり、約 12 ヶ月の期間を経て平成 27 年 3 月に完成となりました。

整備内容としては、当初の目的である全ての利用者にとって使いやすい旅客施設を目指し、平成 8 年に建設した既設ターミナルに、コンパクトにまとめながらフェリー直結のボーディングブリッジや 11 人乗りエレベーターの設置等を行い、高齢者や身体に不自由な方を含めた全ての利用者の円滑な乗下船を実現させるための機能性向上が図られ、より安心で安全な環境を提供することができました。

そして、利尻～礼文航路の就航が再開となる、平成 27 年 5 月 21 日に「沓形港フェリーターミナルバリアフリー対応旅客施設」供用式典は、三好雅北海道議会議員をはじめ、関係省庁及び近隣の市町村長、地元関係者約 100 名にご出席をいただき盛大に執り行われました。

式典では、初めに主催者である保野洋一町長が「沓形港フェリーターミナルは、島民と観光客のふれあいの場として建設されましたが、バリアフリー未対応施設であり、利用される皆様に大きなご不便をおかけしている状況でした。こうした中、国をはじめとした関係機関のご支援を賜うことができ、沓形港フェリーターミナルにおいてバリアフリーに対応したボーディングブリッジの整備が完了し、本日のフェリー就航再開に併せ、供用を開始することができましたことに深く感謝とお礼を申し上げます。」と式辞を述べました。

続いて来賓の祝辞、祝電披露、工事概要の報告、工事関係者の表彰があり、その後、完成を祝福するセレモニーとして、三好雅北海道議会議員、国土交通省北海道開発局 港湾計画課 中島靖課長、北海道宗谷総合振興局 小野寺勝広局長ら 12 名でテープカット、ボーディングブリッジの渡り初めを行い、船内においてハートランドフェリー株式会社船長へ花束贈呈が執り行われました。

式典後は、航路の繁忙期ということもあり多くのお客様が施設を利用し、天候に左右されない快適なボーディングブリッジ、フェリーの乗降をスムーズにする施設内の動線に満足し、喜びの声が聞かれました。



テープカットの様子



フェリー船内で船長への花束贈呈

稚内港、鷺泊港、香深港と併せ、利尻・礼文航路を有する全てのフェリーターミナルでバリアフリー化の整備が完成したことにより、沓形港においても建設当初の目的である「島民と観光客のふれあいの場」として更なる発展がなされ、今後の宗谷地域の活性化に繋がることを期待しております。



フェリー接続状況



ターミナルとボーディングブリッジ



ボーディングブリッジ利用状況